

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	第一回 バイオ・環境系 教育課程編成委員会	
開 催 日 時	平成 27 年 7 月 17 日 (金) 15 時 30 分～17 時 40 分	
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール (第一部)、1001 教室 (第二部)	
参 加 者	外部委員：4 名	内部委員・学内関係者：7 名
	<外部委員：5 名> (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照) 池上 正人 (NPO 日本バイオ技術教育学会／東北大学名誉教授) 市川 和登 (トコスエンタープライズ株式会社) 早乙女 俊行 (ペントロンジャパン株式会社 取締役 品質管理本部本部長) 藤沼 俊則 (NEC 株式会社 医療ソリューション事業部エキスパート) <内部委員：5 名> 大江宏明 (学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科科长、議長) 今野祐二 (学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科科长) 井上綾子 (学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科) 大藤道衛 (学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科) 松井奈美子 (学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科、書記) <学内関係者・第一部参加者：2 名> 三上 孝明 (同 専門学校東京テクニカルカレッジ 校長、第一部のみ) 白井 雅哲 (同 企画部長、第一部司会、第一部のみ)	
会 議 録	<第一部 全体会 (「情報・Web・ゲーム系教育課程編成委員会」と合同開催) > 開会の辞・スケジュール案内 (司会) 1. 学園側関係者挨拶 専門学校東京テクニカルカレッジ校長 三上孝明 2. 委員のご紹介 3. 前回会議 (合同会議) 議事録確認 4. 平成 26 年度自己点検評価報告書の概要説明 5. 平成 27 年事業計画概要と取組み内容の説明 ・平成 27 年度学園組織、改編報告 ・Web 動画クリエイター科 新科設立報告 ・職業実践専門課程 建築科夜間 認定報告 ・環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業 採択報告 ・リアルジョブプロジェクト、進捗報告 <第二部 系別分科会> 1. 議長挨拶 (大江) 2. 前回議事録確認 (大江) ・人材目標 バイオ：命と健康を守る分析技術者・生産技術者 環境：持続可能な社会づくりに貢献できる環境技術者 ・現行科目等で強化すべき点 ① 対策実施状況 ・外部講師による対策講座は行えていない ・内部講師による対策 計算補修 (公文式) などによる対策を行ったが、補修前・補修後の共通試験を行っていないため効果判定に至らなかった ② 学生能力判断基準としての SG 式就職指導検査バッテリーの利用について SG 式就職指導検査では、総合評価、言語能力、計算能力、空間判断力、運動共応、形態知覚、書記的知覚といった判断項目がある。この判断項目の点数と学内試験での結果に相違があるか否かを調べた。	

その結果、言語能力が低い学生は学内試験でも落語科目が多いという関係性を得られた。英語、電気、機械系の勉強よりもまずは言語能力を向上させるべきである。

《指摘事項》・評価軸をしっかりと作らなければならない

→ 未対応

・言語能力を伸ばす

→ 就職活動、HR、社会情報の授業などで作文の練習

3. 意見交換

【 議題① 】 RJP 以外のアクティブラーニングをどう授業に組み込むべきか

回答：

- ・卒業研究を行わせる
- ・一人ずつ論文を調べさせ、その調査報告を発表させる
- ・地域、企業と連帯し、何かをする
- ・講義では考えさせる授業を実施する
(例) 公害などの授業で、地元の住民と企業の者と別れ、リポートさせる

【 議題② 】 企業と連帯、インターンを検討したい

回答：

- ・企業としては、学生の怪我（保険）の心配、学生の面倒を見る人経費などがかかるため、出来ればインターンを断りたい。
- ・2年間の教育で、インターンを組み込むことは難しい
(インターン期間が短すぎる)
- ・他専門学校（東京バイオ）では1年間、企業・大学研究室に200万円を支払い、インターンとして見てもらっている
- ・企業に研究テーマなどをもらい、学内で実験を行う。月1回、企業と面談。その他、メールなどで報告・指示をいただく形にする。

4. 次回日程について（大江）

平成 27 年 11 月 20 日(金)予定

5. 閉式の辞（大江）

17：40 終了

以上